続 徒然つれづれ No. 298

誇大妄想

桑野　巍

「時間があればちょっとお茶でも」と誘ったら「30分程度なら」と応じてくれたのは新聞社の経済担当の編集委員氏だ。偶然出会ったのは梅田の地下街だった。店に入って飲み物を注文する前に通路を行き来する人たちを見て「この人たちはモノに飢えることとは無縁のようだね」といったら、彼は「あなたはその昔の青春時代を思い浮かべているんですか」と変なお愛想だった。

人通りの多さを見て、世の中の景気は悪くないのでは、と持ちかけたら、彼は「みんな楽天的気分が強い。数字の上でも一進一退から一進半退」としゃれた表現をし、05年3月期の企業決算傾向を説明、増配会社が増えたと教えてくれた。それに反して「“地方の大企業”である自治体はほとんどが財政面では負け組だよね」と皮肉った。

「それにしても株式市場は冴えないが」というと彼は「この業界は半年先、一年先をどう読んでいるんでしょうね」といい、業界の「干支読み」のコピーをくれた。それには「子繁盛、丑躓く、寅千里を走る、兎跳ねる、辰巳天井、午尻下がり、羊辛抱、申酉騒ぐ、戌笑い、亥固まる」と書いてあった。つまり去年（申）から今年（酉）は騒いでばっかりで、来年（戌）は明るく笑い、再来年（亥）はやっと固まるというのだ。占い風だから当たるかはずれるか、その時が来てみないとわからないが、まずはこの情報を受け取っておくことにした。

「それではしょぼくれている大阪の浮揚はいつ？」と尋ねたら、彼は「それはわからない。ただ都心部で大型マンションが建設ラッシュ、地価が下げ止まりの局面なので少し風向きが変わってくるかも」と分析、建設中ないし計画中の物件一覧表も見せてくれた。その後がまた皮肉発言だ。彼は「財政難の府庁はりんくう地域に、大阪市は南港に移転したらいい。跡地は有力企業が買って有効利用するやろう」と突拍子もない提案をしてきたのだ。

彼もなかなか言うもんだ、と思ったのでこちらも咄嗟だがもっと大きなことを言ってみたくなった。それはニューヨークに本部を置く国際連合本部の大阪誘致だ。世界平和を希求する世界最大の機関を大阪に、というわけで、候補地は堺市沖の埋め立て地か大阪市の埋め立て地と提案した。吹田市の万博跡地もよいが、すでに公園化しているし、関西空港から遠い、と話したら彼は内心無茶なと思ったようだが「うーん」とうなった。

国連の安全保障理事会の常任理事国になりたいという日本の願望もわからないではないが、原子爆弾の唯一の被爆国である日本に“平和機関”の国連本部が置かれても世界的には何の違和感もない、と熱を上げてみたのだ。じっと耳を傾けていた彼は「失礼ながら、あなたは誇大妄想狂？」ときた。そのあと「でもオモロイね」と相槌を打ってくれたので効能書きを並べた。

国連本部や各関係機関の誘致は世界平和、日本の国際貢献、日本から世界への情報発信、観光産業の振興、関西空港の利用度向上などメリットは数知れずだ。先進国サミットやオリンピック開催など一時的な行事でしかないが、国連本部の新築移転は半永久的だし、堺市などが名実ともに国際都市になり、都市としてのプレステージが上がるだろう。

もうそろそろ彼が発言にブレーキをかけてくるかと思ったが、一向にかからない。相変わらず聞き上手だな、と思ったら、彼は「大阪にそんな企画力、行動力があるかね。それと官邸や外務省は動かないよ」といい、疑いの眼を見せた。「いま大阪地域の閉塞感を打破できるのはこれしかない。誇大広告は問題が多いが、誇大妄想に罪はない。今こそチャンス。必ず大阪に世界の風が吹くはず」とご託を並べ、屁理屈も含めて説明した。

「国連の事務総長アナンさんもびっくりだね」と、彼らしいひやかしの言葉に腰が引けたが、「大阪に明るさが必要な時、この地域の住民がみんなで奮い立つようなプロジェクトがほしいよね。行政機関は政治や経済界を巻き込んで『熱血漢ここにあり』を見せつけなければ…」と演説調になった。誇大妄想が行政マンの意識を変革させ、大阪の浮上につながれば幸いなのである。

（自治大阪編集委員会顧問
時事通信社元大阪支社長）